

同窓会だより

2000年10月1日発行
 大阪市住吉区杉本3-3-138
 TEL 06(6607) 8 3 7 3
 FAX 06(6605) 2 7 6 9
 発行人 廣岡 孝一

“大阪市立大学工学部同窓会の集い”—第3回キャンパス交流会—

本年10月28日(土)の午後3時30分から、工学部学舎に隣接する学術情報総合センターにおきまして“工学部同窓会員の親睦と交流を促進する集い”を開催します。

杉本キャンパスもかなり美しく整備されましたので、同期の友人や職場の同窓生をお誘い合わせの上、“この集い”に是非ご来場下さい。

なお、“この集い”の詳細は、同封の「ご案内」をご覧ください。

技術革新に対応する工学部の10学科体制が完了しました！

母校の学部では、学際的な技術革新に対応できる教育・研究体制を構築するため、1999年に知的材料工学科(15ページ参照)と環境都市工学科(16ページ参照)の2学科が新設され、10学科体制が完了しました。さらに、学科を横断する共通教育の充実と、工学教育の基準化を目指した改革が鋭意進められています。

社会人学生(後期博士課程)特別選抜制度をご存じですか？

大学院工学研究科の社会人学生特別選抜制度は、企業や官公庁の在職者をそのまま後期博士課程の院生として受入れ、各人がそれまでの実績を博士論文に仕上げられると共に、高度な研究開発を推進できる人材を育成しようとする制度です。

母校では、より多くの同窓生がこの制度にチャレンジされ、21世紀の先端技術を推進できる人材へと成長されるよう期待されています。

平成13年度の特別選抜社会人学生は、2001年1月に募集の予定です(10頁参照)。

目 次

母校の動向と当会の交流会……………	1	新学科紹介：環境都市工学科(環境)……………	16
廣岡会長・福田工学部長の挨拶……………	2	同窓会事務局年報……………	17
平成11・12年定年恩師の寄稿……………	3	名簿：平成11年工学部卒業生……………	18
学科の近況と会員短信(機械)……………	4	◇ 平成11年大学院工学研究科修士生……………	19
◇ (電気)……………	5	◇ 平成12年工学部卒業生……………	19
◇ (応化)……………	7	◇ 平成12年大学院工学研究科修士生……………	20
◇ (建築)……………	8	◇ 平成11年工学部入学生……………	21
◇ (土木)……………	10	◇ 平成11年大学院工学研究科入学生……………	22
◇ (応物)……………	12	◇ 平成12年工学部入学生……………	22
◇ (情報)……………	13	◇ 平成12年大学院工学研究科入学生……………	23
◇ (生応化)……………	14	工学部電話番号・新卒評議員・編集後記……………	24
新学科紹介：知的材料工学科(知材)……………	15		

ごあいさつ

同窓会会長 廣岡 孝一



工学部同窓会の皆様にはますますご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

さて、私が同窓会の会長を仰せつかってから早くも3年半を経過致しましたが、この期間中に、社会の気運が随分と変わってきたように思います。科学技術が新しい産業を生み出して、

経済に刺激を与える構図がグローバル化して、世界同時並行で進んでおりますので、その変化が早く、社会的象徴が私達の価値観にまで食込んでくるのを感じます。ミレニアムといはれ、世紀末といはれる丁度この時期に、殊に電子工学と遺伝子工学が急激に立ち上がって参りましたので、リアルの世界とサイバーの世界が相互に係わり合っており、私達の仕事には勿論のこと、実生活にも大きな影響をもたらしてくることでしよう。

そんな中であって、連続と続いてきた同窓会の組織というもの、時代を超え、あるいは時代に跨った貴重な存在だと私は感じております。日頃は疎遠になりがちな間柄で成り立っている会ですが、どんなに久しぶりに逢っても直ぐに打ち解けて語られる世間は、そう多くありません。

私事で恐縮ですが、私は昨年、職場での責任ある立場からセミリタイアの生活に入りつつありまして、現在の日常を活性化し、楽しませてくれる仲間、職場にはなく、同窓の人々です。

今秋には一昨年に引き続き、キャンパスで交流できる機会を設け、恩師もできるだけお招きして、旧交を温めあえる会を催しますので、ご期待ください。

これからもなおしばらくは不安社会が続くと思いますが、工学・技術で切り開くより良い社会の到来を信じて、会員の皆様には日々健康でご活躍いただけますよう、お祈り申し上げて、私のごあいさつと致します。

(応化・昭和29年卒・㈱ナード研究所監査役)

終身会費ご入金の会員各位へ

昨年の20年振りの終身会費の改正に伴い、新入生の方には改正会費を、その他の準・正会員の方には旧会費の期限付き払込みをお願いしましたところ、多々ご出費もおありにも拘わりませぬ、早々にご入金頂き誠に有り難うございました。

超低金利で微々たる預金利息しか得られない今日、同窓生の皆様からお納め頂いた終身会費は、当会の貴重な財源でございます。

今後は、より効率の良い財務運営に努めますので、ご支援・ご鞭撻の程宜しくお願ひ申し上げます。

2000年9月

会長 廣岡 孝一

工学部・工学研究科の再編

名誉会長 福田 武人



工学部同窓会会員の皆様にはいかがお過ごしでしょうか？ 小職が4月に工学部長に就任してからはや半年が経ちました。同窓会の皆さんにメッセージをとのことでしたので、少し前のことですが、本年8月2日に行われましたオープンキャンパスのことをまず、述べてみたいと思います。

その日は、大学に朝からたくさんのお見学者がありました。オープンキャンパスは、毎年8月に主として受験生に対して、全学一斉に一日キャンパスを開放して、各学部毎に入試説明会や見学会などを開催しております。なかには父兄や高校の先生も来られます。大阪市立大学では何年か前からこの行事を始めていますが、他のどこの大学も良い学生を多く集めるのにいろいろ手を尽くしております。工学部では、全体としては工学部の沿革や構成、教育・研究について説明したり、受験生に最も関心の高い入試情報を提供したりしております。また、各学科では学科紹介、実験室見学(体験コーナー)、相談コーナーを設けて受験生に自由に参加してもらっています。

18歳人口の減少で2009年には定員と志願者数が同じになると予想されていて、私学ではこのオープンキャンパスを年に複数回開催し受験生確保に懸命と聞いております。本学は公立大学ということであるところそんなに危機感を皆さんお持ちではないようです。当日の学部長挨拶では、家族や高校あるいは予備校の先生などからここなら入れるから行きなさいというので大学や学部・学科を選ぶのではなく、将来自分が何をやりたいから、またどんな人生を送りたいからこの大学、この学部あるいはこの学科を選ぶようにと受験生に話をしました。

さて、周知のように日本の大学では急ピッチに改革が進められています。我が工学部も乗り遅れないために、また都市型総合大学における工学部のアイデンティティを出すべく構成員一同真剣に改革に取り組んでおります。昨年4月に知的材料工学科と環境都市工学科の2学科が誕生し、これで20年も前から目指していた精選された10領域を擁する工学部となりました。続いて、大学院の再編を目指しております。すなわち、現在10学科、8専攻ですが、これを4専攻に再編する計画です。機械物理系(機械工学科、知的材料工学科)、電子情報系(電気工学科、応用物理学科、情報工学科)、生物化学系(応用化学科、生物応用化学科)および都市系(建築学科、土木工学科、環境都市工学科)の4専攻(いずれも仮称)です。()内は現行の学部学科を指します。

今回の再編の目指す方向は、高度専門職業人の養成機能と社会人再教育機能ならびに特色ある高度な学術研究と研究者養成機能の強化にあります。大学全体としては、いわゆる大学院重点化の方向を目指しております。このため近々大学院部局化がなされる計画があります。すなわち、現在教員の所属は学部ですが、部局化により大学院に移ります。このように、工学部・工学研究科は整備と充実が図られ、平成14年4月には一段とレベルの高い組織に再編されていることと思います。(工学部長・知的材料工学科教授)

大阪市立大学工学部同窓会の皆様へ

中井 博



大阪市立大学工学部同窓会の皆様、今日は！皆様方には、如何お過ごしでしょうか？この場をお借り致しまして、お伺い・ご挨拶を申し上げます。自己紹介をさせて戴きますと、私、平成11年3月31日に、定年退職を致しました土木工学科の中井でございます。昭和29年に滋賀県から出てきました時

から、大阪市立大学には、ずっとお世話になりました。そして、学部・大学院の7年間、および助手から教授までの教員としての39年間を、一人の学徒として無事に過ごさせて戴きました。これも一重に、工学部同窓会の皆様様の陰ながらのご支援の賜物と、厚く御礼を申し上げます。私の学生時代には、まだ工学部がなく、理工学部にて全てが属しておりました。教養時代に成績優秀な方々は、理学系の物理や化学、また工科系の機械や電気などの学科に進級すると云ったシステムが採用されていました。私は、土木屋をしていた叔父の薦めもあり、土木の学科に進んだ次第です。それで、昭和34年の理工学部・土木工学科の最後の卒業生と云うこととなります。私が卒業に5年間を要したのは、山岳部に所属しており、その間、病気のため6ヶ月間休学をしたためであります。しかしながら、昭和33年と34年に卒業の両方のクラス会には、何時もできるだけ出席しており、在職中はもとより、現在も大変に得を致しております。

学舎の方も、昭和29年から42年までの13年間、あの懐かしい扇町にありまして、勉学をはじめ何事も、梅田境界が便利で、それにすっかり慣れ切っております。ところが、大阪辺地の杉本町に引っ越し、しかも文科系の外国人のような先生方とも付合う羽目になり、杉本町は、いまでも本質的に馴染めず、好きになれません。

専門の橋梁工学は、橘・小松両先生の指導のもとに、好き勝手に勉強させて貰いました。いざ、時代の最先端の緒を拓く解析の基本式が誘導できても、それを数値計算する手段がなく、アナログ計算機の駆動には、電気工学科の北嶋（故人）・細川先生らに大変にお世話になりました。また、その後のデジタル計算には、当時の計算センターの技術員の久安さんらのお手を煩わせました。

定年退職するまでの10年間は、バブル崩壊の空白の時期と大方重なっており、学科増設の大仕事や土木工学科内の諸々の事務屋さんみたいな仕事に追われ、あっと言う間に過ぎ去ったような感じを抱いております。

私、現在、福井工業大学の方で、週のうち半ば、土木の学生の構造力学・橋梁工学の授業に徹しています。あまり飲み過ぎないように、特に注意をしています。

皆様にも、ご健康には、くれぐれも御留意を下さい。

(本学名誉教授・元土木工学科教授)

大学改革一定年退職に当たって思うこと一

西村 仁



私は、1956年に大阪市立大学理工学部に入學して以来、大阪府の研究機関に勤めた1年余りを除いて、実に43年もの長きにわたって大阪市立大学で学び、考え、行動しました。この間に、科学も技術も価値観も、何もかも変わりましたが、私にとっては40数年前に大学で学んだことが、思考の原点であり、判断の基準でした。学生時代にフランス啓蒙思想の影響をうけた私は、外国の技術を模倣し、個性を抑えつける日本の社会に強く反発していました。

しかしその後、世界でも例のない日本の成功を目の当たりにして、模倣を創造性と対置してはいけないうようになりました。また、知識や技術を先輩から学び、与えられた仕事を正確に実行する私たち日本人の特性を見て、個性よりも知識と経験を重んじる日本式教育を否定してはいけないうようになりました。

その日本が最近、自身を喪失し、教育改革に明け暮れています。しかし、なぜ改革が必要なのか、何を变えたいのか、明確ではありません。個性や創造性の重視、考える力や表現力の強化が叫ばれていますが、見当違いのように思えてなりません。最近の若い人達が、これらの点で劣っていると結論できる根拠がないからです。

私の意見では、変えるべきものは、日本の大学の閉鎖性ではないかと思えます。日本の大学教員の多くは、長年にわたって象牙の塔に閉じこもり、実社会の課題と取り組もうとしませんでした。この閉鎖性のために、多くの日本の企業は日本の大学とは連携せず、アメリカの大学と連携しました。そして産学連携がアメリカの経済と大学を活性化させました。

全てがグローバル化し、高度化した今日、職人的な人材の育成も必要ですが、全体を理解し、将来を構想できる人材の育成はさらに重要です。優秀なリーダーを育てるためには、文理融合型のリベラルアーツ教育を進める必要があります。理系と文系にまたがった主専攻科目と副専攻科目を、学部においても、大学院においても、履修させる必要があると思えます。それも、いまのようにたくさんの科目を履修させるのではなく、幾つかのメニューの中から、自分で選んだ少数の科目を集中的に履修させるべきです。また大学院では、現場の課題に応える、学際的で、実践的な教育を行う必要があります。

リベラルアーツ教育と実践的な大学院教育と言えば、明らかにアメリカ教育システムの模倣です。しかし、優れたシステムを模倣しながら、独自のシステムに作り変えることは日本のお家芸です。工学部においても、このことを念頭に置きながら、教育改革と産学連携を進めてほしいと思えます。

(本学名誉教授・元工学部長・元応用物理学教授)

機械工学科

機械工学科の近況



南齋 征夫

秋風が心地よく吹き抜ける季節となり、ひときわ暑かった今年の夏の疲れも日々薄らいでゆく感じがいたします。卒業生の皆様方にはいかがお過ごしでしょうか。

さて、平成10年に前号の同窓会報が発行されて以降、とりわけ平成11年の4月を境にして、機械工学科の体制には次のような大きな変化がありました。

平成11年度に知的材料工学科が工学部に新設され、この新学科に機械工学科からスタッフが移ったことに伴って、機械工学科全体が大講座制に移行して1学科=1講座となり、従来の学科内6講座は5つの「専門分野」になるとともに、大半の専門分野（研究室）の名称も変わることになりました。これらの様子をまとめると、機械工学科の現在の体制は次の表のようになっています。

専門分野	教授	助教授	講師	助手
熱工学	野邑 奉弘	西村 伸也		伊與田浩司
流体工学	東 恒雄	加藤 健司		脇本 辰郎
材料強度工学	南齋 征夫		吉岡 真弥	川上 洋司
生産加工工学	上神謙次郎	佐藤 嘉洋		
動力システム工学		瀧山 武		高田 洋吾
機械工作室(工学部共通)		若林三記夫		

この表の中の生産加工工学分野・佐藤先生は平成11年4月に東北大学工学部より着任されました。また、動力システム工学分野では、本年3月に守田栄之教授が定年退職され、本年10月にはその後任として京都大学工学部より新教授が着任される予定です。

機械工学科ではこのような変革をさらに進め、平成14年には大学院を再編成し機械工学科と知的材料工学科が中心となって機械物理学専攻を立ち上げる予定です。修士・博士の両課程の学生数を増やすとともに、研究中心の大学院構想をすみやかに実現させることにしています。卒業生の皆様方のご支援をお願いいたします。

その他、機械工学科に関連する消息としては、平成10年12月に元教授の唐沢性義先生がお亡くなりになりました。ご冥福をお祈りいたします。また、昭和43年より機械工作室の技術職員として永年にわたり勤務してこられました工藤勝久氏が本年6月に退職されました。

市場経済のグローバル化に伴って、大学にも競争原理が波及してきています。市場原理は大学をも巻き込むのか、と半分は嘆きつつも、これからの10年間で機械工学科、工学部、そして大阪市立大学の雌雄を決する期間になると考えています。
(機械工学科主任教授)

(右下よりつづく)
じさせません。

子育ても一段落したところですから、また正月の例会に向けて帰省したいなと思います。そして35年、40年の節目のイベントも楽しみに、是非続けていきたいものです。

(機械・昭和44年卒・日産自動車(株)生産事業本部)

さまざまな思い

小林 良三



私も卒業してはや35年になり、来年の12月で60才を迎えることになりました。子供2人も大学を卒業して社会人になって、一応親の責任は無事終了いたしました。これからは仕事の合間をみつけて、趣味の旅行、ゴルフ、家庭菜園で楽しみたいと思っています。

ところで、今春、友人が中国の経済特区である深圳へ仕事に行くというので同行させてもらいました。

深圳は香港からバスで2時間ぐらいのところにあり、社会主義の国にもかかわらず、日本、台湾、欧米諸国の企業の名前がやたらと目立っていました。そして町中は、清潔感では日本に比べてやや劣りますが、内陸から出て来た青年労働者は、道路に溢れんばかりおり、そしてその若者は全員はつらつとしており、ファッションも日本の若者ともあまり異ならず活気に満ちあふれていました。そして町では老人の姿はほとんど見ることが出来ませんでした。現在でも広大な土地にビルや工場がどんどん建設されており、豊富な労働力と官民一体となった政策により今後さらに発展が予想されます。

それにくらべますと、最近の大阪は我々の学生時代にくらべて活気がなくなってきた感じがし寂しい限りです。今後の後輩諸氏の頑張りを期待するところです。

(機械・昭和40年卒・近畿日本工機(株))

四四(獅子?志士?)会のこと

端山 英孝



私が市大を卒業したのが1969年の春ですから、社会人生活もはや31年になります。卒業以降同級の仲間の集まりが毎年欠かさずに続いています。それが四四会です。私どもが卒業した頃は学園紛争が華やかな時で、講堂も封鎖されており、卒業式も無く学科毎に卒業証書もらった記憶があります。

機械科の同期生は全国のメーカーに散っていましたが、正月にはみんなで集まろうと約束して、1970年正月2日に“みなみ”にはじめて集いました。

私も初回から参加し、子供が小さい間は帰阪の予定も四四会に合わせておりました。最近では毎年の例会には御無沙汰が続いておりますが、万年幹事と皆勤賞のメンバーが正月恒例の例会を守ってくれています。

15周年には始めて京都のホテルで家族も含めた例会を持ち、20周年では恩師の御参加も頂き盛り上がりしました。25周年は例会のほかにゴルフコンペもやり、30周年でのグアムへの海外ツアーへと繋がりました。

四四会にはインターネットの得意な方もいて、ホームページがあります。御興味のある方は以下にアクセスしてみてください。(http://www.asahi-net.or.jp/~zw7k-tknk/44kai.html)

振返れば同窓の仲間は実にいいものです。何年経っても気がおけないのは変わらないし、いくら時が離れても空白を感じ

電気工学科

日本もプロ・パテント政策に転換

吉田 稔



1981年、産業の空洞化が進み、双子の赤字に苦しみ、すべての面で行き詰っていた米国は、強いアメリカを標榜するレーガン大統領の登場により、1929年の世界恐慌以降50年間継続したアンチ・パテント政策からプロ・パテント（特許重視）政策に転換しました。特許係争を専門的に扱う連邦巡回控訴裁判所（CAFC）、侵害品の米国輸入差止めを6ヵ月以内に
行う国際貿易委員会（ITC）の設立のほか、ソフトウェアやバイオ技術についての特許化の道を開き、そして、ミノルタ・ハネウエル事件に代表される日米特許戦争を次々に仕掛けて特許権の強さを全世界に知らしめました。その結果、数々の技術革新がなされ、1990年には米国は完全に立ち直り、その繁栄はなお継続中です。最近はまだ、ビジネス方法が特許対象となることが確認されるという、エポック・メイキングな事件も起こりました。

日本は、やっとプロ・パテント政策に転換し、法的インフラの整備が終わりました。日本が生き残るには、再度米国に追いつけとの気持ちをもって、IT技術を中心として、技術革新に注力するほかはありません。

卒業して23年、弁理士となって20年。このような大転換の時期に居合わせた専門家として、科学技術創造立国の推進に微力を尽くしたいと考える今日この頃です。

（機械：昭和52年卒・共栄国際特許商標事務所）

近況報告

二宮 隆志



機械工学科同窓生の皆さん、先生方、御無沙汰しています。近年、環境問題が国内外でクローズアップされていますが、これを受けて現在、私は生ゴミ処理システムの中の排水処理装置の生産立ち上げと生産管理・物流管理を行っています。

入社以来、会社でのテーマはいつでも専門分野とはおよそ異質のものでありながら、期限付きで業界の第一人者になることが求められてきました。現在のテーマもいわゆる水処理の分野で、もちろん様々な水質分析も行ってきました。他部署から、「えっ、実は機械屋だったのか」と言われる始末で苦笑しています。けれども、様々な場面で緊急に学生時代の知識を求められることもあります。「よし来た！」と思うのですが、このような時に限って、悲運にも真面目に勉強していなかった科目の知識がよく求められます。社会人になってからは、「時間がないから」という便利な言い訳をよく使ってきましたが、膨大な時間を手にしていた筈の学生時代にさぼっていた科目に限って……。歯がゆい思いです。

最近、“生涯学習”なる言葉を新聞でよく見かけます。母校市大も、大学院の再編に併せて、より社会人に広い門となるのでしょうか。いずれにせよ、「時は金なり」です。後

電気工学科の近況

鈴木 裕



同窓生の皆様、暑い中ご健勝でしょうか？ 8月4日の午後3時過ぎ、酷暑の中でこの文を書きました。大阪の夏は本当に暑い。環境問題で最後まで残る懸案は温暖化の問題でしょう。本学の電気工学科では南助教授がいかにエネルギー消費をおさえるかと言う問題を見据えて、電気自動車の研究に取り組んでいます。また、建部教授と青笹教授はJICAの研究相手に太陽光発電とその応用について教授しております。また、中川助教授は環境汚染ガスを電子ビームパルスで除去するのだと頑張っています。

さて、大阪の暑さに負けて、話はいきなり環境問題へとんでしまいましたが、まずは電気工学科の新陣容をご紹介します。

平成11年度より工学部が10学科体制に移行しましたが、それに伴い電気工学科は縮小しております。学生定員は1学年28名、教員定員は14名となりました。第2次ベビーブーマー世代に43名の学生定員でしたので、淋しいかぎりですが、量の減少を質でカバーしようと皆頑張ってます。

平成11年3月には電磁機器学研究室に大阪大学より辻本助教授を迎えました。マイクロ電磁デバイス、脳波解析などの研究で頑張っています。

懸案だった村治助手の情報工学科より電気工学科へ移籍が実現しました。

高橋講師が助教授に昇格しました。

黒田助手が東海大学へ転出し、相変わらず世界を駆ける男と頑張っています。有能な人材を世に送り出したことは喜ばしいことと思います。

また、長年電気工学科の教育・研究にご貢献頂きました福原敏行技術職員が本年3月をもって定年退職されました。

ところで、創設以来当学科の発展にご尽力下さった平井平八郎先生が平成11年3月にお亡くなりになりました。ご冥福をお祈りいたします。

来年度卒業予定者の就職に関しましては、OB、OGの皆様は大変お世話になりました。現時点で就職未決定は1名を残すのみとなっています。500社をこえる求人いただきましたが、儲かって儲かってと言う電気・電子関係企業でも、新卒採用にあたりましては、よりよい人材を選んで選りすぐっているとの印象を受けました。すぐれた人材を育てる重責を感じます。

今年の春は電気工学科の博士コースへの進学はゼロでした。ゼロは工学部でも電気工学科だけで、大変残念なことです。いまは博士コースの門戸を広げ、修了年限の縮小をはかっていますので、同窓生の皆様も一度社会人入学など検討してみてください。（電気工学科主任教授）

（左下よりつづく）

悔しい時間の使い方をしたいと考えています。

（機械：昭和62年卒・積水化学工業(株)京都研究所）

知財戦争

坪香 英一



松下電器に入社して今年で30年になります。入社以来中央研究所で27年間研究開発の仕事に従事し、現在は松下電池工業で知財の仕事に携わっています。

この仕事をするようになって痛切に感じることは、特許の世界は正に戦争であるということです。レーガン大統領

がアメリカの経済復興策の一環としてプロパテント（特許重視）政策を打ち出して以来、特許侵害に対する賠償金の高額化、罰則規定の強化など特許権の値打ちが飛躍的に向上し、企業間の特許を巡る紛争も増加の一途を辿っています。企業の収益にも大きな影響を与えるようになり、下手をすれば当該事業の存続の可否にも影響を与えかねません。一方、複雑高度化する製品を作るためには、その製法も含めて、一つの企業が所有する技術のみでは不可能であり、アライアンスやクロスライセンスも盛んに行われています。

このような状況下で、自社を有利な立場に置くためには、有力な特許を他社よりも少しでも多く保有していることが極めて重要です。これからの事業戦略は特許を抜きにしては語れません。技術に携わる者は、既存の技術をこなすだけではなく、如何に独創的な技術を生み出すかがますます重要になってきていると言えるでしょう。

（電気・昭和45年修・松下電池工業(株)）

卒業して30年……

梅本 伸作



電気工学科を卒業して早30年。卒業前の1年間は学園紛争真っ只中。授業はまったくなし。勉学は研究室での卒業研究のみであった。その時の気持ではメーカーに入って何かの研究、設計を行い、それを続けていくことの自信がなかった。そこで体を使い、何か目に見える大きな仕事出来る会社はないかと言うことで日立プラント建設(株)に入社した。当時は高度成長期の建設ラッシュの最中で、入社早々岡山県水島コンビナートの自家発電所（火力）の建設に派遣された。右も左もわからない状態で電気計装工事を任せられ、随分大胆な会社だと思ったものだ。その後5年間で愛知県岡崎、和歌山、大阪堺、北海道釧路、タイのバンコックと次々にプラント工場の自家発電所の建設に従事した。昭和50年に入り、関西電力、九州電力の火力発電所の建設に従事し、平成になって、公共部署に移り、広島3年、名古屋3年、そしてやっと大阪に戻り6年経過した。子供たちは成人し、長男には女の子が誕生、長女もまもなく嫁ぐことだろう。振り返るとばたばたの人生で無我夢中で走ってきた感がする。名古屋時代に先輩に山に誘われ初めて高山に登り、以来山歩きに取りつかれた。仕事以外の熱中できるものが見つかり、今は幸せに思っている。とりえず日本百名山をめざし、健康に留意してこれからも頑張る所存。

（電気・昭和45年卒・日立プラント建設(株)）

みんな元気ですか？

安達 光平



1975年に卒業し早や25年。三菱電機生産技術研究所、材料研究所を経て、9年前からアドバンスト・ディスプレイ(ADI)に出向しております。ADIは三菱電機を親会社とするパソコンやモニター向けの液晶ディスプレイ(LCD)を製造する会社です。近年、LCDの画質もCRTとほとんど遜色のないレベル

になっており、薄型軽量、消費電力も小さいことから広く普及していることはご承知のとおりです。当初、LCDは日本メーカーの独壇場でしたが、最近では韓国や台湾メーカーが台頭し、半導体と同様に日本メーカーにとって大きな脅威になりつつあります。が、しかし、そこはそれ、もう一歩進んだ技術開発・製品開発に日々注力しているところです。日本のメーカー頑張れ。

私生活では、出向と同時に熊本に家族同伴で移り住み、今ではすっかり田舎のおっさんになってしまいました。趣味として、休日には野山にあるカズラのついで植木鉢ハンギング用のカゴを編んだり、竹を切っては正月用の門松を作ったり、阿蘇のゴルフ場で地球タキにムダ汗を流したりと、熊本暮らしを満喫しております。

それにしても、卒業後は一度も大学には顔を出さず、ご無礼を致しております。お世話になったお先生方や一緒に遊んでくれたガラ悪き同窓生達はみんな元気で暮しているのでしょうか？

（電気・昭和50年修・アドバンスト・ディスプレイ(株)）

ロボットの発展に貢献

前谷 治男



私は、電気工学研究科を修了して20年が過ぎましたが、この間に、溶接用及び搬送用の産業用ロボットの開発を担当してきました。入社当時は専用の自動機械が主流でしたが、今主役は産業用ロボットです。マイクロコンピュータ等の半導体技術、情報処理技術及び制御技術の進歩に伴い、機械と

電気とソフトを組合せ混血したメカトロニクスの概念が生まれ、この技術開発に取組んできました。1980年代に産業用ロボットの飛躍的な発展に少なからず貢献してきたことを誇りに思っています。

1990年頃より、半導体や液晶製造装置に使用する搬送ロボット及び搬送システムの開発に携わっています。これまでの技術を応用し、クリーン搬送の新しい視点を加えて新技術の育成に取組み、新たな分野を確立することができました。今後は、ノートパソコンや携帯端末等情報家電の波に乗って、急速な成長が見込まれます。このためには半導体や液晶の生産性の飛躍的な向上が必須であります。これからの取組みとして、要素技術の革新だけでなく、CIM及び生産システム全体にまで視点を広げ、次世代クリーン搬送ロボット・システムの開発とコスト・パフォーマンスの限界に挑戦することです。技術者として広い視野を持つことを痛切に実感しているところです。

（電気・昭和54修・㈱ダイヘン）

応用化学科

応用化学科の近況

米澤 義朗



卒業生各位におかれましては、ますますご活躍のこととお慶び申し上げます。平成11年度、同12年度の学科主任を勤めさせて頂いています。

この間の大きな変化は、平成11年4月工学部10学科制の発足にともない応用化学科が1大講座、5分野体制となったことです。同時に専門分野の名称変更、教員の所属変更等が一部行われたため、ここで5分野の名称、教員構成等をあらためてご紹介します。無機工業化学分野：小槻勉教授、澤井圭二郎助教授、五百井正樹助手、有機工学化学分野：小澤文幸教授、南達哉講師、片山博之助手（平成11年4月採用）、高分子化学分野：三浦洋三教授（平成11年4月昇任）、圓藤紀代司助教授、工業物理化学分野（反応・合成工学を改称）：米澤義朗教授、朝見賢二教授、米谷紀嗣助手、材料化学分野（学部共通研究室から移行）：山田文一郎教授、松本章一助教授（平成11年4月昇任）、セルタン・パル・ポー助手（平成11年10月採用）。

大変残念なお知らせですが、原納淑郎先生が平成9年11月に、井本稔先生が平成11年1月に、大饗茂先生が平成12年5月にお亡くなりになりました。ご冥福をお祈りいたします。ここ2年間の学生卒業生数は以下の通りです。平成11年3月：学部卒業34名、前期博士課程修了14名、後期博士課程修了4名、平成12年3月：学部卒業39名、前期博士課程修了15名、後期博士課程修了1名。来年3月には、学部30名、前期博士課程19名、後期博士課程2名の卒業生を予定しています。前期博士課程学生のうち後期博士課程進学希望は3名、就職希望者の内定率は約80%です。学部4回生の進学希望者は70%以上、就職希望者の内定率は約75%です。昨年来、就職希望の大学院生、学部学生は厳しい就職活動を強いられています。卒業生の皆様の一層のご支援をお願いいたします。

工学部では平成14年4月の大学院再編にむけ、大学院生とりわけ後期博士課程学生確保のためさまざまなとりくみをはじめています。応用化学科では平成11年から前期博士課程推薦入試を実施し、毎年1名の合格者を出しています。すでに実施している後期博士課程社会人特別選抜につきましても、各位の一層のご理解、ご協力をよろしく願っています。

平成11年8月3、4日、大阪市のコスモスクエア国際交流センターにおいて第37回全国大学工業化学・化学工学合同研究集会が開催されました。（責任大学：本学、幹事校：法政大学及び大阪大学）。応用化学科、生物応用化学科で実行委員会を組織し、全教員の献身的な努力によって同研究集会を成功裏に終了したことをご報告いたします。

最後にになりましたが皆様のご活躍と益々のご発展をお祈りいたします。（応用化学科主任教授）

板橋 正毅



昨年は新幹線のトンネルのコンクリート落下、JCOの臨界事故、そしてH2ロケットの失敗と立て続けに起きて、日本の科学技術の曲がり角だと言われています。とりわけJCOの臨界事故については強い思いが湧いてきます。この事故ではバケツの使用が批判を受けましたが、果たしてそうなのでしょう

か。日本の科学技術の強さの一つにTCR活動があり、その結果としてバケツを使う方が効率的作業だと結論されて実施されていた様に思います。それは我々の日常活動であり、そこに問題があるのではなく、そうすることの上部への変更手続きの不備とその技術的背景の教育と周知徹底の欠落と思えてなりません。そして今年、雪印の食中毒事故が起こり、凄まじい経過を辿っています。菌を侮った気配があり、そこに端を発していますが、ここにも情報、報告の不備が火に油を注いだ結果を招いたと思われます。そこでのマスコミは何が正しいかではなく、何が理解し易いか、で報道している様な気がします。

現在、研究開発部門ということで直接研究活動に携わらないポジションで、説明責任、情報システムについて、自分はどうするのか、それもグローバル化の局面でと考えている毎日です。（応用・昭和46年修・花王(株)研究開発部門）

くすりはリスク

日原 充淑



毎日の通勤にJR阪和線を利用して、杉本町にあるキャンパスをいつも目にしていきます。

私は、大学では合成化学の研究室（木下研）だった関係で、製薬会社入社当初は合成の研究を行っていました。入社後、会社のほうも紆余曲折あり、現在の社名となるに至りました。

今は化学の分野からは離れ、臨床試験（治験）の監査という業務に従事しています。治験では、患者さんに開発中の薬を使ってもらい効果を確認することとなるので、法的にも倫理的、科学的観点から厳しく規制されています。この治験という「製品」の品質を監査することです。

ご多分に洩れず、製薬企業をとりまく環境も厳しいものがあります。医薬品の承認審査の厳格化や国際化が進み、新たな医薬品を世に送り出すことがますます困難な状況となっています。さらに、欧米の巨大企業同士の合併が進み、日本の小さな製薬会社は研究開発能力の差から存続の危機に立たされています。私のいる会社も2年前に合併しましたが規模的にそれほどでもなく、いかにして生き残るかという命題を突きつけられた格好です。一つの医薬品が世にでる確率は何千、何万分の1、研究開発には10年以上の歳月を要すると言われていたのですが、昨今はその数字以上の難しさを感じています。（応化・昭和63年修・ウェルファイド(株)信頼性保証部）

市大で得たもの

景岡 正和



入社以来、ポリウレタン用の原料開発を行っています。担当のウレタンフォームは、冷蔵庫などの断熱材、車やソファなどのクッション材に使用されています。脱フロン、脱ハロゲン、難燃化などが技術課題のベースにありましたが、いくつかの製品を生みだすに至り、ユーザー要求に応えるための

肉体労働に近い実験に時間をとられながらも、ある程度学術的に意義のある知見は何回かの国際学会で発表する機会も得ました。学生時代、研究の進め方、自分の研究のアピールの仕方などを学ぶことができたことが非常に役に立っています。

今でも鮮明に思い出すのは、学生の頃学会の前々日まで実験をしていて、OHPの出来あがり前夜の10時となり、御指導いただいた山田先生と終電で帰りながら発表練習を行い、さらに当日の早朝から先生宅におじゃまして朝食を頂きながら練習をしたことです。

環境問題が深刻化する中、化学技術の方向性は我々研究者が責任を持ってコントロールせねばと痛感しています。企業の研究者である以上、利潤の追究が前提となりますが、同時に環境にプラスとなる技術をこれからも開発してアピールしていきたいと考えています。

(応化・平成4年修・武田薬品工業(株))

今更ながら

實生 史朗

大学を卒業し社会に出て約二年半になりますが、半年に一回の同期会も回を重ねるごとに参加者が減っている気がして寂しい思いです。

私が化学系の大学に進学し高分子化学を専攻しようと思った理由は二つあります。一つは中学高校時代の部活で軟式テニスをしており、約十年前の当時はちょうどラケットの材質が木からグラファイトに変わっていくときでした。友人が買ってきたグラファイト製のものの軽くて振り抜きやすいこと。これが私に化学、特に繊維・樹脂というものに興味を持たせた大きな要因です。

もうひとつは「物理、とくに電磁気学の分野が苦手」だったからです。電源と抵抗まではよかったのですが、コンデンサ・トランジスタが入ってくるともうだめでした。苦手ですからあまり勉強もしませんでした。そんな私が入社以来現在まで電子材料開発に従事しております。いまだに苦手意識は払拭できていませんが、IT革命といわれている時代にこの様な仕事に携わっていることを幸せに思い、また高分子材料の開発という点においては十年前の夢が叶ったといえるでしょう。

「もっと勉強しておけばよかった」多く先輩方が思ったことであり、また在学中の後輩諸氏はこう思うことが少ないように頑張ってくださいですが、今更ながら身にしみて感じています。

(応化・平成10年卒・日本油脂(株))

建築学科の近況

谷池 義人



大変蒸し暑く、寝苦しい日々が続いており、さらに17歳少年のキレル事件、母親による保険金事件、伊豆諸島の震度6弱の地震勃発など、日本全国不安定さが増しておりますが、同窓生の皆様方におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。学科主任は今回で2度目となりますが、なかなか任務に慣れるまでには到っておらず、主任研スタッフの協力のもと、なんとか主任業務をこなしております。

学科の人事異動につきましては、今年3月に建築計画及び建築史講座の教授をされていた多胡進先生が定年により御退職されました。先生は40年近くにわたり、建築学科の教育・研究に尽くされ、さらに工学部長として工学部の運営と発展に寄与され、これまでに数多くの実社会で活躍している卒業生を送り出し、また優れた研究業績を上げてくれました。先生の御退職は本学科にとり、大いなる痛手ではありますが、残された教員全員の努力と協力により、先生の抜けられた大きな穴を埋めていく所存です。先生の今後の益々の御活躍をお祈り申し上げるとともに、これまでの御指導・御支援に厚く感謝申し上げます。今年4月に、西岡利見先生が、昨年定年退職されました成瀬先生の後を引き継ぎ、環境工学分野の教授に昇任されました。また、建築学科の関連教員で、工学部共通分野の図形科学担当教員として、鈴木広隆先生が講師として採用されております。最新のITを取り入れた教育・指導をお願いしたいと思っております。

さて、今年度の新入生は、学部が31名(内女子4名)、大学院前期博士課程が13名(同4名)、後期博士課程が4名でした。後期博士課程は全員社会人で、30代1名、50代2名、60代1名で、最年長の65才の方は、これまでに仕事の傍ら研究してきたことをじっくり纏めて、博士号を取りたいとのことでした。皆さん方の学識の豊かさと学問に対する熱意、研究意欲は相当なもので、面接にあたった教授陣も思わず襟をただしました。本人のやる気次第で、勉強は幾つになってもできることを再認識致しました。なお、工学研究科では、平成13年度に大学院の改革・再編案を文部省に申請し、平成14年度に大学院大学として重点化(教員が学部ではなく大学院に所属する)する予定です。その際、建築学科は大学院では、土木工学科と平成11年に新設された環境都市工学科とで都市工学専攻を形成することになっております。なお、文部省への申請にあたり、後期博士課程の入学定員の充足を計る必要が生じております。同窓生の皆様方で、勉強意欲が沸き起こっている方、研究意欲の旺盛な方、あるいは今までの研究を纏めようとされている方は、ぜひ後期博士課程(社会人特別選抜)へ入学して、博士論文にチャレンジして頂ければと思います。

次に、学生の進路状況は現在のところ次のとおりです。学部4年生は48名中、大学院進学希望22名、就職内定16名(建設会社3名、建設・コンサルタント3名、プレハブメーカー5名、その他5名)、未定10名となっています。この内、女子は7名中5名が未定です。また、院2回生は13名中、就職内定9名(建設会社3名、設計・コンサルタント3名、プレ

ハブメーカー2名、その他1)、公務員試験結果待ち1名、未定2名(いずれも女子)となっています。御承知のように、建設関連企業の業績回復が遅れていることもあって、就職状況が相当厳しく、この時期になっても女子の大半が未定となっております。このため、学部生は大学院に、院生は後期博士課程に進学を考えております。学科全体が2、3年後の景気回復を大いに期待している現状です。同窓生の皆様方のさらなる御支援をお願い致します。(建築学科主任教授)

電車に乗って

末原 親司



少子高齢化の影響は我々鉄道業界にも乗降人員の減少といった形で現れ、景気低迷と相俟って、ここ数年来ほとんどの鉄道会社では運賃収入が下げ止まっていない。ましてSOHOやネットモールなどのように、自宅で仕事や買い物をしてはたまったものではない。

家にこもらず、いかにすれば電車に乗って出掛けて頂けるか。それにはバーチャル世界では体験できない発見や感動さらには居心地の良さや安らぎを与える仕掛けを沿線各所で展開していかなければならない。

私は十年前から、「人間交流都市の実現」を開発コンセプトにした西梅田での街づくり(平成9年に第一期として「Herbis Osaka」が開業)の仕事に携わっている。洗練された大人の街の感覚でデザインされたホテルロビー・レストランやブティックは「ハレ」の気分が満ちあふれ、行き交う人々はそのを舞台に美しく装い、優雅に振る舞い、非日常のひとつときを存分に楽しんでおられる。

仲間や同伴者あるいは周りの他人と感動を共有し、豊かな気持ちで時を過ごせる、いわゆる「劇空間」を提供することが、今後隆盛を極めるネットビジネスの対極にありながら、一方でその存在感をより一層高めて行くであろうと考えている。もちろん甲子園での「阪神タイガース」の応援も・・・。

(建築・昭和43年卒・阪神電気鉄道株)

「つれづれなるまゝに…」

山口 元樹



「酒とバラの日々」—ご存じヘンリーマンシーニの名曲、何とかピアノで弾けるように。もちろん上手いとは言えませんが、ま、何とか。甘美な題名とは裏腹にアルコール依存症の若年夫婦の映画だったとか・・・。

「夕陽」—瀬戸の夕陽をご存じですか?ある日は鏡のような水面(みなも)を、またある日はきらめくさざ波をオレンジに染めて……。因みに私の生まれは小豆島、寒霞溪から見た夕陽の美しさをぜひお見せしたい。燃えるような空と海の間に瀬戸の鳥々を浮かべて、そして、あくまで穏やかで、厳かで・・・。

「論語」—悲しいかな、我が香川県は豊島問題で一挙にinfamously。同じ行政に携わる身として、「過ちて則ち、改

むるに憚る事勿れ」の意味を噛み締めています。

「attic」—拙宅の小屋裏3階(8畳大、天井高1610~3110)を日曜大工(建具、左官、電気はプロに依頼)。土日のみで工期22ヶ月。天井:樫無垢板目透かし貼り、壁:珪藻土引き摺り仕上げ、床:櫛フローリング貼り、照明:イサムノグチ「Akari」のお古。梁下に取付けたBOSEの101MMで「クレオパトラの微笑み」なんかを流していると、見晴らし最高、風通しよし、真夏の暑さを差し引いても大満足。写真をご覧ください。いかがでしょうか、赤崎先生?

(建築・昭和53年卒・香川県庁土木部)

住宅の設計者

荻窪 伸彦



最近の私の仕事は、再開発をベースとして集合住宅の設計に関わるが多くなっています。でも学生の頃は、「住宅は住み手が創るもので建築家はアドバイザーであるべきだ」と言う考えを持っており、積極的に集合住宅を設計したいとは思ってはいませんでした。しかし、仕事となった以上はそう

も云ってられなく、巷でよく耳にする『100年住宅』、『SI(スケルトン・インフィル)住宅』、『環境共生住宅』、『LCC』などといったテーマを掲げては実現に向けて設計をしています。

しかし、ふと考えると本当に100年住宅に必要なかと思う事があります。現在、家族は100年同じ場所に住むことが可能だろうか。SI住宅だからといって子供が成長するごとに間取りを改造する家族がどれほどの割合いるのだろうか。数百戸の団地を供給して100年後に一斉に壊すのであろうか。やはり、これらの巷のテーマは供給者側の発想であろうと思います。といっても技術者としてこれらのテーマは、興味深いものであることには違いありません。そこで私は再開発の権利者の方の住宅に関しては極力細部まで説明し、自分の意思として住みやすい住宅に変更し、その住宅を100年生かすつづけてもらえるように心がけています。やはりインフィルの設計者は住み手の方であるべきでしょう。

(建築・昭和63年修・㈱安井建築設計事務所)

「自分」を持てば、未来は明るい!?

木村 祐子



エネルギー会社に就職して7年目を迎えました。大学・大学院時代はバブル全盛期で、都市景観を研究していましたが社会情勢もずいぶん変わりました。コスト削減・環境問題がキーワードとなった昨今、まちづくり・建築の中で、エネルギー会社に就職した建築学科出身の者として、自分に何が出

来るのか模索の日々が続いています。

次世代エネルギーとして注目を浴びる家庭用燃料電池等の仕事をさせて頂いていますが、女性がプレゼンを行ったり、勉強会の講師を行ったり、技術スタッフとして営業に同行す

土木工学科の近況

北田 俊行



前回の15号は1998年10月に出され、園田教授が土木工学科の近況を報告されています。それ以降には、昨年(1999年)の11月に出された土木会報で高田教授が教室主任報告をされています。したがって、ここでは、1昨年の10月以降で土木会報に記載されていない事項の報告をさせていただきます。

人事面では、今年の4月に、角掛助手と吉田助手が、それぞれ構造工学分野および土木計画学分野に採用され、現在の土木工学科の教員は14名となっています。この中から、来年の3月末には、園田教授と西村教授が定年退職され、土木工学科の教員構成が大きく変わろうとしております。

長期の海外出張として、日野助教授が1昨年3月から昨年の3月までのほぼ1年に亘りイギリスのロンドン大学に、また鬼頭助教授は昨年の10月から12月の3ヶ月間オーストラリアのモナッシュ大学に留学されました。

学生の定員は、従来の43名から、平成15年度には28名になります。それまで毎年漸減され、今年度は30名、来年度は29名になります。ちなみに今年度の新入生は男子30名、女子2名の計32名となっています。一方、大学院前期博士課程への進学者は昨年度から急増し、今年度の新入生は23名、今年度の受験者は30名(推薦合格者4名を含む)となっています。また、大学院後期博士課程への進学・入学者も増えてきており、今年度の後期博士課程1年生は7名となっています。大学院の組織が大きく再編成され、土木工学専攻が建築学専攻と統合され都市工学専攻となる平成14年度からは、土木系6名の後期博士課程定員を充足させていくことが、これからの土木系の7つの研究分野の大きな課題となっております。

学生の就職は、景気の関係で厳しくなりつつありますが、土木工学科および土木工学専攻では、先輩の方々のご協力のおかげで、現在のところ順調に進んでおります。

来年3月の卒業予定者は44名、前期博士課程修了予定者は17名です。卒業予定者(修了予定者)の就職希望先および内定先は、以下のとおりです。建設関係10名(修了予定者の場合3名)、コンサルタント4名(2名)、鉄構・橋梁関係4名(1名)、そして私鉄1名(0名)が内定しています。これから公団・公務員関係の採用試験結果が出てきますが、この分野を希望する学生が5名(6名)、大学院進学を希望する学生が20名(3名)います。コンサルタントを希望する学生、および後期博士課程も含めて大学院進学を希望する学生が増えていること、さらに、前期博士課程修了者は専門分野を限定する関係で不景気になると希望就職先を探すのが難しくなるなどの傾向が認められます。今年の国家公務員試験(I級)の合格者は、1次が6名で最終合格者は3名でした。

(土木工学科主任教授)

ることは先方にとって、まだまだ珍しいようです。よく、「女性に説明されると思いませんでした。技術者を連れてくると聞いたものですから…」と言われます。次ぎに決まったら「ご結婚は?」と聞かれます。そこは、「そうですね(笑)。よく言われるんですよ。我が社にも女性の技術者は多いんです。」とプライベートには触れず、笑顔で返せるようになりました。これも年の功でしょうか?

現在、建築学科にも女性が増えていると聞いています。「自分」をしっかり持って、時代の流れを感じ取る感性さえあれば、男女の関係なく自分の道が開けるはず。

皆さん、一緒に頑張りましょう!!

(建築・平成6年修・大阪ガス(株))

工学研究科後期博士課程
平成13年度社会人特別選抜学生募集

大学院工学研究科では、平成13年度の特別選抜社会人学生として、後期博士課程の院生(昼間)を下記のように募集します。

募集人員：各専攻毎に若干名

出願資格：平成13年4月1日現在、修士の学位を有する者、または修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、1年以上の勤務経験を有する者

試験科目：口述試験

修業年限：3年

- 募集要項の発行は平成12年12月で、出願は平成13年1月の予定です。
- 出願書類等を郵送で請求する場合は、大阪市立大学教務部(〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138、TEL(06)6605-2131)にしてください。
- 請求封筒の表には「赤色」で「工学研究科社会人学生募集要項請求」と記入し、返信用封筒(390円分の切手を貼り、受取人の住所・氏名・郵便番号を明記した角型2号)を同封して下さい。
- 出願の申し込み、および問い合わせは、工学研究科教務係((06)6605-2653)までご連絡ください。

危機管理について 金岡 俊文



“危機管理”とは、いつ頃生れた言葉だろう!!

過去の事例よりみて、東は震災、西は水害…と大別されたイメージが強かったと思うが、或日突然に起ればすべてに対して“戸惑い”の一語につきよう。

平成7年1月17日に発生した「兵庫

県南部地震」（阪神・淡路大地震）による未曾有の都市直下型の大被害、また平成5年7月12日の「北海道南西沖地震」による津波被害の2例を挙げても、危機管理体制が不十分であったと言わざるを得ない。

各自治体等において防災対応基本計画の見直しに取り組まれているものの、わが国で多発する様々な自然的現象（一口に自然災害とおこう。）に対しての防災、減災に対応しうるシステムの編成、即ちハード・ソフト、情報（伝達、連携）等のネットワーク化による、災害対応を計画的かつ強力に推進され、その成果により安全な生活基盤の確保に努めなければならないと考える。

いわゆる、構築施設の能力を超える自然現象に対し、その被害を最小限に喰い止め、壊滅的な被害を回避するための“危機管理体制”が確立された地域社会を構築することが必要である。

一方、日々マスコミを通じて報じられている人的衛生面においても“危機管理”が叫ばれている昨今でもある。

現在の如く、衛生医学、予防措置が究明されており、長寿の要因として科学的研鑽の成果により、人命に対する衛生的措置の高揚をみている昨今、起り得べき現象とは言いがたく、衛生的にも危機管理体制の徹底を強く望みたい。

ここに結語として、すべての現象に対応しうる夫々の分野を併せて、“複合的危機管理体制”の構築と日常訓練を強く望む一人である。

（土木・昭和26年卒・（社）日本技術士会近畿支部）

IT革命って何 西垣 好彦



早いもので、卒業後38年が過ぎてしまいました。最近のIT化により、情報入手はインターネットで、情報交換はe-mailでと変化し、直接お会いすることが減っています。人間は直接顔を合わせて話すことにより、感情が伝わり、言葉の裏まで読めることが多いと思います。コンピューターで得た情報

では人の温もりが欠け、正しい情報交換になっていないことが多いような気がしている今日この頃です。とはいえ、IT革命は否応無しに追いかけて来ています。業務をこなすにはweb対応で生データがすぐ得られ、データベースを利用してすぐに判断できることはいいことといえます。しかし、最近の若者はビデオ・テレビゲームで育つたため、想像の世界で生き、自己中心の世代といわれ、直接人と付き合うのが不得意になってきています。このようなことが若者の不登校や犯罪へと走らせる一因になっているのではないのでしょうか。それに輪をかけてIT化が進むと買い物、現金引き落としなども携帯電話で可能となり、仕事も自宅で出来るようになると、

全く人と直接接しなくとも生きていける時代となります。こう考えると「IT革命って何」といいたくなります。

（土木・昭和37年卒・基礎地盤コンサルタンツ(株)）

時代の変化 堺 義一



大学を卒業して早いもので既に35年が過ぎようとしています。その間に日本の社会環境も、大きく変化したことが、今更ながら改めて考えさせられます。

私が大学を卒業した年は、東京オリンピックや大阪万国博覧会の時代で、土木の分野では、高速道路や新幹線の整備、ニュータウンの開発に向けて新しい技術を取り入れながらみんなが一丸になってモーレツ社員のかけ声の元に一生懸命働いたものです。『頑張れば良くなる』そう信じることの出来る時代でした。オイルショック、公害問題、環境破壊等の問題指摘もありましたが、何とか克服しながら高度成長を繰り返して、日本人の所得が世界一となり社会基盤も整備され、物質的にはあり余る時代になったと思います。成長期の良き25年であったように思います。そこに驕りがあったのでしょうか？

そこをピークに崩壊が始まったような気がします。経済社会ではバブルが弾け大企業が破産し、自然界では阪神大震災が発生し火山活動が活発になり、若い人たちの精神面でも大きな変化があるようです。難しい時代になってしまいました。

平成8年から、4年間非常勤講師で土木工学科の「土木施工」を担当し、学生さん方と接しましたが、これからの若い人たちを見てみると「難しい時代になってしまったが、頑張ってくれ!」と言う気持ちで一杯です。

（土木・昭和41年卒・(株)大林組）

これからどうなる？ 館川 逸朗



昭和62年に修士課程を修了し、バブル期に転職ブームの波に乗り今の会社に移り、今年で社会人14年目。近頃は京大の新入りがやっと入れる就職氷河期、業務減に収入減、リストラに脅え、昔は金も余裕もあったと懐かしむ。土木は、私はこれからどうなる？と言えど立派なジジイの仲間入り。家族と自分の

身は自分で護らなくては! コンサルに技術士は必要と、平成6年に土質で、11年には施工計画で取得。昨年10月には愛しい近畿を離れ、中部への転勤に従い、今年7月に優秀なスタッフが小里川ダム管理用橋梁詳細設計で建設省中部地建局長賞を頂き、私も一担当としてアビール? 橋ができたら暇な方はダム水面下のアンカー付法枠をご覧下さい。それにしても私の悪運の強いこと。と思ったのも束の間、脂肪肝だ痛風だと診断され、2cmの大腸ポリープを見つかるまで大騒ぎ! 夏にビールも飲めず、焼肉ホルモンはおあずけと踏んだり蹴ったり。無茶も30半ばまでかた猿の様に反省することしきりです。人生ほどほどが一番でしょうか？

（土木・昭和62年修・パシフィックコンサルタンツ(株)）

応用物理学科

応用物理学科の近況

中山 正昭



同窓生の皆様には益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。応用物理学科は、21世紀を目前にして大きな転換期を迎えておりまして、そのことを中心にご報告いたします。

この3月末日をもって、西村仁教授（前工学部長）と美馬宏司教授が定年を迎えられました。西村先生は光物性

分野において、美馬先生は真空工学分野において大きな足跡を残され、研究と教育への情熱とお人柄を通して、多くの有為な人材を育成されてきました。両先生とも、退職記念事業については固辞され、研究室の卒業生を中心に「囲む会」という形式で記念会が和やかに催されました。長年にわたって学科の柱石としてお働き頂きました西村先生と美馬先生に、言ひしれぬ寂しさを感じつつ心より感謝申し上げる次第です。尚、西村先生は、(財)大阪市立大学後援会研究交流相談室の室長として産学官連携推進コーディネータの任に就いておられます。

学科の構成は、昨年4月の工学部の10学科体制への改組により、光物性工学、物性制御工学（新設）、電子物理学、応用分光計測学（旧プラズマ工学）、及び、数理工学の5分野となり、量子物性工学分野（森雄三教授）は新設の知的材料工学科に加わりました。さらに、平成14年度4月に予定されている大学院重点化に相当する工学研究科専攻再編へ向けて、険しい道ではありますが準備が進みつつあります。

人事面においては、公募により広く人材を求め、この4月1日付けで、中山弘先生（前神戸大学工学部助教授）が物性制御工学分野の教授に、細田誠先生（前浜松ホトニクス(株)中央研究所室長代理）が電子物理学分野の教授に着任されました。中山という姓の教員が私（光物性工学分野）を含めて2名在籍しており、混乱する可能性があるかと思っておりますので承知おき下さい。中山弘教授は分子線エビタキシーなどの結晶成長の物理機構に関して、細田教授はGaAs系の光エレクトロニクス素子における電子輸送に関して、先端的な業績をあげられており、着任後は熱心に研究室の構築に力を注いでおられます。また、この3月末に、数理工学分野の高根美武講師が広島大学工学部に助教授として転職され、その後任として加藤岳生氏（東京大学大学院理学研究科研究生）が10月1日付けで着任される予定です。

ところで、悲しいお知らせですが、学科の開設当初から発展にご尽力いただいた、大倉滄先生が平成10年10月に、三戸左内先生が平成11年9月に、大東俊一先生が平成12年6月にお亡くなりになりました。心よりご冥福をお祈りいたします。

近年、産学官連携、技術移転、高度専門教育という言葉で代表されるように、技術革新の拠点としての大学の知的ポテンシャルが強く求められ、また、問われています。この大学としての激動の時期において、応用物理学科はその要請に応えるべく鋭意努力しております。学科の組織と教員は以前とは大きく変わりましたが、伝統である自由に真理を探究する精神の風土は変わらずに根底にあると思っております。同窓生の皆様、今後とも一層のご支援の程、宜しくお願い申し上げます。

(応用物理学科主任教授)

若い者には負けられぬ

福岡 稔



今、私は岡山県の里庄に居る。里庄は日本での量子物理学の祖「仁科芳雄博士」の生誕の地である。毎日、若い人達に混じって「ケータイ」用CSP（Chip Size Package）と格闘している。最近の「ケータイ」は凄い。今年の出荷台数は4億台、2002年には加入者数が10億人を超えると見られている。機

能の変化も著しい。音声中心からデータ通信へ、更にはインターネット接続端末へと変化、早晚パソコンを凌ぐといわれている。100年以上続いた固定電話から瞬時に主役の座を奪い、人間関係・社会生活・文化さえも変えていく勢いだ。「ケータイ」には、基本機能・軽薄短小等デザイン面で半導体が大きな役割を占めている。また一方、最近の半導体技術の進展や好調な市況は、「ケータイ」に負うところが大きい。とりわけ「ケータイ」が半導体パッケージング技術のパラダイムシフト、CSPを育て、スタックド・システム・インテグレーションパッケージ（3個のチップを積み重ねて1個のCSPに収納）にまで展開せしめたことは特筆すべきことと考える。世の中は新世紀に向けて進歩し続けている。

私も、何とか、若い人達を支援し続けたい、若い者には負けられぬとばかりに、日々努力している。

この地に来て3年、最近になって漸く、道で出会う人達に「おはようございます」と先に声が出せるようになった。

(応用・昭和35年卒・シャープタカヤ電子工業(株))

同窓の絆で社会へ貢献

山根 正照



三菱電機の半導体部に30年間、米国の情報・コンサルティング会社に4年間、今エレクトロニクスの貿易専門商社に勤めています。典型的な日本企業とCEOが絶対的な権限を行使する外資系企業の経験から一言述べてみたい。世界の企業経営の環境は今、戦略とスピードが雌雄を決する時代にあります。

このような状況で求められる人材は旧来の権威主義や官僚主義的人材ではなく、リベラルで即断即決と果敢な行動力のある人材です。その人材は旧帝大と私大の良い所を育み、且つ自由を尊ぶ大阪に根づいた大阪市立大学に学んだ諸氏ではなからうかと常々思っています。諸氏の出番です。一方事を成就するには人脈も大切です。機械工学科昭和22年卒の大先輩片井振武さんのお誘いで数年前から伝統ある市大文系の同窓会有恒会の東京支部の催しに参加し、沢山の先輩の知己を得ています。理工系の人にはない素晴らしいものを感じ、教えられ公私共に助けられています。東京では絶えていた市大工学部の同窓会を片井さんの下で土木、建築、機械、電気、応用、応物の各科世話人によって昨年立ち上げました。

また、日本の半導体産業の発展に寄与すべく「半導体産業に長年携わり多くの経験と知識を培われた方々に事情の許す限り末永く活躍頂くこと」を目的として、半導体シニア協会をつくりました。応物昭和34年卒で沖電気工業の元副社長の

情報工学科の近況

岡本 次郎



IT (情報技術) は沖繩サミットの議題の1つにもなったように、世界的に注目されている話題です。ITの発展は産業や商業へ大きな影響をもたらし、百年に一度あるかなきかの革命を社会にもたらすと言われています。よくご存知のように、情報産業界ではIT技術者の不足が深刻な問題になっ

ています。その影響もあってか、情報工学科の求人数はこの不景気にもかかわらず減ることもなく、本年度は就職希望者(学部5名、修士11名)に対し、直接大学へ求人依頼に来た企業の数(市や府を含む)は60社を超え、郵送による求人依頼は350社を超えました。ほぼ全員の就職が決まった現在も、求人案内が週に4、5通は来ている状態です。

近年の就職に関する特徴はSPI(適正検査)や面接の成績が悪いと容赦なく落とされることです。バブル後リストラに励む企業は、大学のネームバリューや推薦状よりも、学生の実力を評価するようになりました。これは当然の成り行きであって、今までがおかしかったと言えます。企業の変革は大学の教育改革にもつながります。少子化や大学院大学化などと相まって、全国の大学は今大変革期を迎えています。行政は産業の活性化を目指し、産学官の連携を強く推し進めており、大学も時代の流れに沿って協力しています。産学官共同が諸悪の根源のように批判されていた大学紛争当時と比べると驚天動地の変わり様です。

今年度の学部新入生は、定員が昨年度より9名増え、24名となりました。また、大学院新入生は12名のところ、16名を迎えました。

教員の移動としては、昨年度は永年に亘り電気工学科と情報工学科に在籍し、教育と研究に多大の貢献をなされた情報処理分野の細川省一教授が定年退職され、後任に私が研究室を任せられました。先生は、現在宝塚造形芸術大学の常勤教授として元気に活躍しておられます。また、私の研究室の助教授として松下電気産業株式会社より自然言語処理が専門の平井誠氏を迎えました。

本年度は、情報ネットワーク工学分野で阿多信吾君が大阪大学基礎工学部後期博士課程修了後助手に採用され、また情報通信工学分野で本学情報工学修士課程修了後、NTT(未来ねっと研究所)に就職していた辻岡哲夫君が助手として採用され、優秀な新しい顔が増えました。

平成11年度より、情報工学科に念願の後期博士課程が開設されました。社会人入学の制度もございますので、ご関心のある方はぜひお問い合わせ下さい。

最後になりましたが、皆様方のご健勝とご活躍をお祈り致します。(情報工学科主任教授)

(左下よりつづく)

21世紀には、インターネットがますます発展しそうです。よりグローバルな世界となり、個々の情報発信も大切になってくるのではないのでしょうか。自らも役立つホームページを作っていきたくと思っています。

(応物・昭和54年卒・住主コンピューターサービス(株))

東忠男先輩がこの協会の諮問委員の一人として活動されています。

大阪市立大学卒業という「同窓」だけで、心が通うものがあるのは不思議なものです。この貴重な同窓を活用しお互いに助け合って社会へより多くの貢献をしようではありませんか。(応物・昭和37年卒・伯東(株))

杉本キャンパス 宇佐美 照夫



先日、久しぶりに杉本キャンパスを訪ずれた。大学を卒業して10年くらいの間は会社のリクルータとして新入社員獲得のため先生方をお願いにあがっていたが、近頃は海外出張の行き帰りに「特急はるか」の車窓から数分間ずつしかながめているだけであった。

まず工学部に向くと、理学部、旧家政学部との道路に森のように街路樹が成長していた。自動車が多さにもびっくりした。学生時代は道路に樹木などなかったように思うし、自動車通学など希であったと記憶している。

教養のキャンパスに行くとき授業の合い間に寝ころんでダベっていた芝生がまだあった。この中庭の芝生で大学祭の前夜祭で模擬店があふれにぎわったものであった。模擬店での売り上げで一夜飲みあかし、翌朝気がつけば空のビールビンが60本もあったという今でも信じがたいことも懐かしく思い出された。

母校のキャンパスは不思議なものである。会社に入社して数年間の東京丸の内の本社勤務を除き、ずっと研究所勤務である。その関係から大学への出張も多いが、欧米や中国ですばらしいスクールカラーをもったキャンパスに出合うこともある。しかし母校のキャンパスに来てみると、それらとはまったく違った言葉には表わせない安らぎと、若き青春の限りない思い出がよみがえってくるものである。

(応物・昭和48年修・三菱電機(株))

研究室の思い出と現況 加藤 昌夫



先日、美馬先生からお電話をいただき、久しぶりにお声を聴くことができました。早いもので卒業後約20年経ち、当時の研究室のことが懐かしく思い出されます。

美馬先生とドクターの八木さんの指導のもと、マスターの平松さんと4回生3名のメンバーで、真空の実験装置をマイクロコンピューターで自動制御しようと取り組んでいました。ちょうどワンボードパソコンが始め、あのインペーターゲームが流行していた頃です。各自が分担してマイクロコンピューターの作成に取り組み、一年がかりでやっと動作した時は感激しました。

現在、会社のネットワークシステム構築と管理を行っています。最近ではLinuxサーバをベースにiモードの携帯電話を利用したシステム構築に携わりました。最近のIT技術の進歩には目を見張るものがあります。インターネットやE-Mailは当たり前になり、その便利さを実感しています。

「電気メーカーなのに自動車用エンジンの開発？」

和田 浩司



色々な分野に挑戦できると考えて総合電器メーカーに就職し、早や4年が過ぎました。入社前の配属面談で「趣味はレース観戦とドライブ、最近自分の車にカーナビが欲しい」程度の軽いノリで「車に興味がある」と言ってしまい、現在の担当職務（エンジン制御システムの開発）が決まりました。最近

のエンジンには制御用の強力なコンピュータが搭載されており興味もそそられました。肝心のエンジンに関しては専攻分野からかけ離れていたこともあり、知らない事ばかりで非常に焦りました。ただ恵まれたことに「教科書に載っていない様な新しい製品」を扱う開発部門に配属されたため、自分の考えを取り入れやすく、比較的のびのびと仕事に取り組めました。ここまで来られたのも「自主的に問題を発見し、そして解く」という修士課程での経験のおかげだと思います。

日常生活は学生時代からの「夜型」が治っておらず、フレックスタイム制度を存分に利用している状態です。既に新入社員の教育を任せられる立場であり、社会人の模範として期待されている事をもっと自覚しなければ！

世界的規模で競争が激しい自動車業界のため、仕事はかなりハードですが、一人前の中堅エンジニアとしてやっていけるよう、まずは健康維持・体力強化に励みたいと思っている今日この頃です。

(情報・平成6年卒、電気・平成8年修・三菱電機㈱)

近況報告

小泉 幸恵



工学部同窓会の皆様、いかがお過ごしでしょうか。私は今日も元気に過ごしています。大学を卒業して早四年半がたち、社会人としてはそろそろ中堅の仲間入りができるようになってきたかな、というところです。

さて私の近況ですが、一年程前に親元を離れて単身の生活を始めました。

最初の頃はあれやこれやとたくさん事をやろうとして忙しくなってしまう、ちっとも落ち着きませんでした。でも最近では、平日はともかく休日のんびり気ままに過ごすことができ、快適な生活を送っています。社会人になったらやってみたかった事の一つを実現することができ、自分の自信にもつながりました。

ではこれから先はどんなふうに生きていこうか・・・これが現在の私の大きな関心事です。でも考えてみたところで、そう思いどおりにいかない状況にでくわすこともあるでしょう。ただ、自分の信念や希望だけはどんな状況になろうとも守っていく、この気持をいつも心に留めておこうと思っています。それさえできれば、これまでと変わらずのほほんとしていてもいいかなあ、というのが今の私の正直なところなんです。

とりとめない文章を最後まで読んで下さり、ありがとうございました。まもなく21世紀です。素晴らしい年を迎えましょう。

(情報・平成8年卒・㈱東洋情報システム)

生物応用化学科の近況

山内 清



生物応用化学科が設立されて今年で10年になりました。これまでに先達教授・卒業生の皆様から幾多の応援をいただきましたが、おかげさまで、ようやく教育・研究ともに態勢が整って滑走が始まったかなと感じています。先と同窓会報でも報告されていますが、学部では一般入試に加えて専門高校卒業予定者を対象に推薦入試を、また大学院でも一般入試と推薦入試を行い、試験内容には従来の科目筆記試験のほかに口述試験を取り入れるなどして人物資質を加味した選考方式を取り入れつつあります。しかしながら、このような多様化にともなって入学した学部生のうち、非常に元気で優秀な成績をあげる人がいるのも事実ですが、なかには数学・物理・化学などの授業についていくのに大変苦労している人もいます。

入試多様化の効果と影響をいましばらく見守っていく必要があると思います。

平成12年度は4回生20人、大学院前期博士課程22人、後期博士課程は社会人入学を含めて12名が在籍しています。来春の学卒予定者のうち8名は就職12名は進学希望、院修了予定者のうち、9名は就職希望していますが、今年も景気が低迷し来春巣立つ学生・院生の就職への影響が心配されました。しかし、6月初旬には大方内定をいただけており他大学に比べても順調でありました。これも卒業生・先輩方のお世話になっておりますこと実に大です。

教員構成は、現在、次の通りです。

生物工業化学分野：井上英夫教授、笠井佐夫助教授、北村昌也講師（平成11年10月昇任）

生物化学工学分野：大嶋寛教授、東雅之助教授、五十嵐幸一助手

生体機能化学分野：玉垣誠三教授、長崎健助教授、東英紀助手

生体材料工学分野：山内 清教授、田辺利住助教授、立花亮講師

生物情報工学分野：荻野健治教授、串部宏之講師

なお、12年度の入替わりはありませんでしたが、東助教教授が、McGill大学（カナダ・モントリオール市）に酵母の細胞壁に関する研究で来年4月まで1年間の予定で出張中です。

本号の同窓会報のどこかで述べられていると思いますが、大学院では重点化をめざして大きく再編しようとしております。その時は相当、教育・研究組織の形態が変わることでしょう。しかし、皆様との交流はこれまでと変わらず同じです。生応化では同窓会はまだまだありませんが、充実した交流組織へと築き上げたいものです。今後とも一層のご支援をお願い申し上げる次第です。皆様のご活躍とご健康をお祈りいたしております。

(生物応用化学科主任教授)

美容に対する先人達の知恵

田中 善治



平成7年に生物応用化学科2期生として卒業してから早くも6年目を迎えます。現在、私は家業である田中善株式会社に勤務しています。主に、ぬか袋タイプの化粧品や粉体の化粧品を中心とした製造・販売・受託製造などを行っています。

さて、皆さんは「ぬか袋」というものをご存じでしょうか？木綿の布袋に米ぬかを入れた袋の事ですが、風呂場風景が描かれた浮世絵には、必ずと言って良い程、女性がぬか袋を口にくわえていたり、ぬか袋でお肌を磨いていたと言った描写が見られます。日本女性の素肌の美しさ（きめ細やかさ）はぬか袋でお肌を磨く事により培われたと言われています。この事は、毎日ぬか床をさわっているお母さん達がとてもなめらかな手をしている事でもおわかり頂けると思います。このように、米ぬかを用いた美容法は昔から広く知られてきました。

ここで私が言いたいのは、昔から受け継がれているものはそれなりに理にかなったものが多いと言う事です。事実、近年の研究により、米ぬかにはビタミンBやビタミンE、カルシウムや鉄分などの美容効果に優れた成分が多く含まれていることがわかってきています。

これからも、美容に対する先人達の知恵を大切に、それを商品に取り入れていきたいと思っています。

(生応化・平成7年卒・田中善株)

新薬開発に携わって 徳田 拓弥



協和発酵工業は医薬、化学、食品、酒類、バイオケミカルの五部門からなり、私は医薬総合研究所製剤研究所に所属しています。研究所は静岡県三島市にあり、山、川、海に囲まれたすばらしい所です。配属当初は、田舎暮らしの不便さに唖然としましたが、「住めば都」といった感じででしょうか、3

ヶ月足らずで今の環境に満足する様になりました。

現在、私は癌を対象とした注射剤の開発に取り組んでいます。近年、製品の品質管理、保証等が重要視され、研究面においても様々な規則が定められています。又、メーカーとして「顧客満足の向上」という視点からも新薬、既存薬について多くの要望が求められる様になりました。そういった状況の中で製薬業界の生き残りを懸け、開発ステージでの更なるスピード化が求められるため、非常にタイトなスケジュールで確実に仕事を行わなければなりません。しかし、このような現状にこれまでにない責任感や、やりがいを持って仕事に取り組んでいます。

かつては法律に守られていた医薬品産業界においても世界的に合従連衡の機運が増々強まり、日本にも欧米の大企業がなだれを打って進出しつつあります。そうした中で、一步一步確実に経験を積み、多くの新薬を開発していきたいと考えています。(生応化・平成10年卒・協和発酵工業(株)医薬総合研究所)

知的材料工学科について

橋本 敏



この分野では全国で初めて新設された“学際的”な教育・研究をおこなう学科で、平成11年4月に発足しました。現在は教員11名で運営し、学部2回生17名と新入生25名が在籍しております。

『知的材料』とは、生物における神経、脳および筋肉にそれぞれ相当するセンサ、プロセッサそしてアクチュエータ

の三つの要素を備えた次世代の材料をいいます。物理や数学の基礎に立脚したミクロの量子物性、材料物性や結晶工学から、航空・宇宙工学分野や機械工学などへのマクロな最先端の応用までをカバーするユニークな教育と研究を志向しております。構成する四分野をご紹介します。

材料知能工学分野：福田武人教授、逢坂勝彦助教授、高坂達郎助手が主として複合材料の知的化の研究に取り組んでおられます。また平成11年度から通産省（NEDO）に新設された「大学連携型産業科学技術研究開発プロジェクト」一知の材料・構造システムの研究開発一に参画し、センサ、アクチュエータなどと複合材料の一体化知的成形プロセス技術の確立を目的として研究をおこなっております。

材料数理工学分野：元木信弥教授、山崎友裕助教授、大島信生助手が担当しております。多様で複雑な材料挙動は、単に実験で測定するだけでは完全に把握することは難しく、物理や力学の基本原則に基づいた理論的なモデリングを通じて、はじめて真に役立つ材料挙動の理解に至ることが出来ます。複合材料の損傷のモデリングと評価、電磁気材料のカップリング現象のモデリング手法の開発、各種材料の超音波による応力の非破壊in-situ評価技術、ミクロとマクロをつなぐ平均化学法の研究などをおこなっております。

材料機能工学分野：橋本敏教授、A.Vinogradov助教授、兼子佳久助手が、材料の強度の解明を目的として、主として金属材料について、物性理論にもとづいて格子欠陥、結晶塑性、界面や結晶粒界の構造と力学的性能を解析し、強度と破壊にかかわるナノからメゾ、マクロのスケールでの研究をおこなっております。格子欠陥の運動のシミュレーションや高機能材料として注目されているナノクリスタルやアモルファス金属の強度物性の解明、金属疲労のエンブリオロジとき裂発生の予知学にも取り組んでいます。

量子物性工学分野：森雄造教授、金崎順一助教授、近藤孝文助手（10月1日起任予定）で構成しています。動植物の生命を維持するためのさまざまな機能性有機色素であるカロテノイド等の生物中の有機分子の固体や、セラミクス表面の物性を調べ、工学的に有用な新しい物性を探索しております。カロテノイド分子の生物中での働きから、これらの固体では顕著な量子効果や新しい物性が期待され、レーザや画像を用いた新しい光学的計測法を開発しながら、有機分子材料やセラミクス材料などの自己組織化や光学的量子効果を中心とした研究をおこなっております。（知的材料工学科主任教授）

「環境都市工学科」の誕生

土井 幸平



工学部では今大きな改革が進んでいます。この改革の一環として、平成11年4月に環境都市工学科が誕生しました。市大工学部が長年の懸案としてきた都市工学の充実が建築学と土木工学の間に実現しました。この3学科を東ねた都市工学専攻（仮称）への大学院再編が進行中です。21世紀都市大阪の

都市づくりを担う人材をこの3学科が力を合わせて育成することを目指します。

環境都市工学科は、平成11年4月に一期生17名、平成12年4月に二期生22名の新入生を迎えました。一期生は、平成15年3月に卒業します。

環境都市工学科は、21世紀の都市、即ち「地球環境への負荷を低く抑えつつ、人々が生き生きと暮らせる安全で美しい都市空間を持った都市—環境都市」を創造することを目標に、「環境創造エンジニアリング」と「環境創造プランニング」の両面から教育・研究を行うことを特徴とし、次の4分野より構成しています。

- ①環境都市計画分野：都市計画の視点、即ち土地利用計画、都市デザイン、まちづくりの視点から環境都市のあり方を追求し、経済学・行政学・生態学などの他分野とも連携して教育・研究を行う。（土井幸平教授、赤崎弘平教授、中村 仁助手）
 - ②環境水域工学分野：河川の流域、河口、沿岸などの都市を取り囲む水域を対象とし、都市を災害から守ると共に、生物生息環境の保全・復元技術、水域汚濁機構の解明と浄化技術に関する教育・研究を行う。（小田一紀教授、矢持進助教授、重松孝昌講師）
 - ③地域環境計画分野：人々が健康かつ快適に生活するには、日射・温湿度・風などの気象、騒音・大気などの物理的環境が重要です。快適で過ごしやすい都市域環境に関する教育研究を行う。（三木信博教授、西岡真稔講師、鍋島美奈子助手）
 - ④都市リサイクル工学分野：都市では多くの資源・エネルギーが消費され、汚染やごみ問題が深刻です。資源・エネルギーの有効利用、汚染物質の除去・安全管理など、資源循環型社会創出のための技術に関する教育・研究を行う。（山田 優教授、貫上佳則助教授、西 元央助手）
- 教員12名の小規模な学科です。少人数の学生数を生かしたきめ細かな教育カリキュラムを用意するとともに、他学科・他分野と連携した学際的かつ実践的な研究を目指します。この新しい学科の教育・研究の開発、卒業生の進路開拓などにおいて、工学部同窓会の皆様のご指導、ご支援を切に願います次第です。（環境都市工学科主任教授）

2008年 大阪オリンピック

招致支援募金にご協力下さい

（郵便振替：00980-9=141755、大阪オリンピック招致委員会）
募金期限：2001年4月末

2000年2月

大阪市立大学同窓会の皆様へ

財団法人 大阪オリンピック招致委員会
会長 磯村 隆文

2008年大阪オリンピック招致支援募金へのご協力をお願い

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は2008年オリンピック大阪招致に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
さて、ご高尚の通り私ども(財)大阪オリンピック招致委員会は本年1月25日に国際オリンピック委員会に立候補の届け出を終え、今後、クリーンに正々堂々と内外の招致活動を行なってまいりたいと考えております。
21世紀は「都市の時代」として、国という枠を超えて都市と都市が直接交流し、その個性や魅力を競い合う時代を迎えるともいわれております。
こうした時代の到来と機を一にして、私どもは、まちが華やか「国際集客都市」づくり、またあらゆる世代にわたる生涯スポーツ社会づくりの一環として、さらには次代を担う青少年に夢と感動を与え、その健全育成を図るためにも、是非2008年大阪オリンピック招致を実現したいと考えております。
皆様方の母校、大阪市立大学は、名市長の著れ高い一市長の時代に「専門学校」の延長でなく、国立大学のコピーでなく、学問研究を中心にして都市並びに市民に密接であつて迎合しないことを理念として創設された大学であり、大阪の貴重な財産です。
私どもの招致活動は市立大学をはじめとした大学関係者、大学OBにも有意義なものであると存じます。
そこで本会では、招致活動を推進していくにあたり、「2008年オリンピック招致支援募金」を大阪市立大学有恒会の皆様へ呼び掛けさせていただくことになりました。
つきましては、諸事ご多端の折り誠に恐縮に存じますが、「2008年オリンピック招致支援募金」の一翼を担う意義について何卒ご理解をいただきまして、ご寄付につき格別のご支援、ご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます次第でございます。

謹白

2008年大阪オリンピック招致支援募金
オリンピックを大阪に！ 2008年オリンピックの開催都市の決定は2001年です。新しい世紀のオリンピックを日本で実現しましょう！



みなさまからの
あたたかいご寄付を
お願いしております。
ご寄付いただいた方には、
ささやかな記念品を
お送りします。

大阪オリンピック
招致委員会

02 大 阪 市 立 大 学 同 窓 会 へ

009809=141755

大阪オリンピック招致委員会

009809

141755

大阪オリンピック招致委員会

大阪市立大学用

〒591-8531 大阪府守口市大津町1-1

大阪市立大学 学務部 庶務課

TEL: 06-6645-2111 FAX: 06-6645-2112

E-MAIL: osaka@uap.or.jp

事務局年報(1998・10～2000・9)

1998年(平成10年)

- 10月：第15号会報を発送(3日)。大学祭中の母校にて当会の第2回キャンパス交流会を開催(31日)。
- 12月：市大同窓会連合会の役員会に廣岡会長が出席(9日)。

1999年(平成11年)

- 1月：第13期第5回理事会にて第11回評議員会の議案・同窓会懇親パーティ1999の次第を決定(14日)。
- 2月：第11回評議員会にて第14期事業・予算が承認され、終身会費の改正が決定(5日)。市大広報第37号を学外理事・評議員に送付(16日)。
- 3月：本年の全卒業予定者に桜基金を依頼、終身会費未納の卒業予定者に改正通知と払込み要請(11日)。本年の入学手続学生に当会の案内と会費払込を要請(15、25日)。1998年度工学部送別式・鏡割りに廣岡会長・溝神建築会長・理事有志が出席(24日)。真室京子氏が事務局を退職(30日)。
- 4月：後任事務局員に福田千代子氏を採用(1日)。大阪城ホールにて母校の1999年度入学式(5日)。
- 5月：第108回市大ボート祭にアドバルーンの掲揚で協賛、廣岡会長が市大同窓会連合会を代表して挨拶(22、23日)。
- 6月：第1回「21世紀の大阪を語る会」への参加を会員有志に呼掛け(8日)。市大広報第38号を学外理事・評議員に発送(21日)。
- 7月：旧会費未納の準会員(2回生以上)に改正を通知し、期日内の払込みを要請(19日)。市大同窓会連合会の役員会に廣岡会長が出席(22日)。
- 8月：1999年版会員名簿の広告依頼状を発送(10、18日)。第14期第1回理事会にて本年の「会員相互の交流・親睦を促進する行事」の中止を決定(20日)。
- 9月：市大広報第39号を学外理事・評議員に送付(1日)。「大阪市立大学教育後援会(育桜会)」が発起人会・設立総会を経て発足(25日)。
- 10月：第2回「21世紀の大阪を語る会」への参加を大阪とその近隣に在住の会員に呼掛け(12日)。
- 11月：旧会費未納の準・正会員に改正を通知し、期日内の払込みを要請(25、30日)。当会の4年毎の会員名簿(1999年版)を発行・頒布(30日)。

2000年(平成12年)

- 1月：市大広報第40号を学外理事・評議員に送付(12日)。第14期第2回理事会にて旧会費入金分の特別基金への積立を決定、今秋の「会員相互の交流・親睦を促進する行事」を検討(21日)。
- 3月：会費未納の2回生以上の準会員と正会員に払込みを要請(3、10日)。本年の入学手続学生に当会を案内し、会費払込みを要請(15、25日)。本年卒業の会費未納者に払込みを要請(21日)。1999年度工学部送別式と鏡割りに廣岡会長・理事有志・溝神建築会長が出席(23日)。
- 4月：大阪市中央体育館にて母校の2000年度入学式(5日)。第14期第3回理事会で特別基金の追加積立を決定、「会員相互の交流・親睦を促進する行事」を継続審議(26日)。

- 5月：市大広報第41回を学外理事・評議員に送付(7日)。第109回市大ボート祭にアドバルーンの掲揚で協賛(27、28日)。
- 6月：会報第16号編集委員会で発行計画を決定(20日)。会費未納準会員に払込みを要請(30日)。
- 7月：会報第16号の原稿依頼状を発送(13日)。第14期第4回理事会で「会員相互の交流・親睦を促進する行事」として第3回キャンパス交流会の10月28日(出開催)を決定(26日)。
- 8月：会報第16号の原稿入れ終了(22日)。市大広報第42号を学外理事・評議員に送付(23日)。
- 9月：会報第16号の校正完了(12日)、印刷・製本を完成(25日)、郵送準備を終了(30日)。

◎1999年版会員名簿をご希望の方へ

1999年11月1日に発行しました会員名簿の残部を、ご希望会員に先着順に頒布(¥5000)致します。ご希望の方は、至急に当会の事務局へお問い合わせ下さい。

◎終身会費の払込をお願いします!!

終身会費は当会の貴重な財源です。

未納の方は、すみやかに払込み下さるよう願います。

◎住所・勤務先のご変更は、かならず事務局へご連絡下さい!!

桜植栽募金のご報告

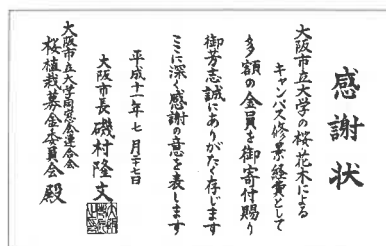
1998年4月1日から1999年6月末にかけて実施の桜植栽募金は、73,216,100円のご醸金を頂きました。お蔭様で、母校の設置者である大阪市には67,292,286円を寄付出来ました。

なお、杉本キャンパス内での桜植栽工事は、2001年(平成13年)3月末迄に竣工の予定ですが、昨年7月磯村市長より下記通り感謝状を頂きました。

ご醸金誠に有り難うございました。

2000年9月

大阪市立大学同窓会連合会
桜植栽募金委員会



工学部の電話番号[06-6605-(下記番号)] (2000. 9. 1. 現在)

機械工学科	電気工学科	応用化学科	建築学科	土木工学科	応用物理学科
野邑 奉弘 2663	鈴木 裕 2676	小槻 勉 2693	谷池 義人 2764	岡田恵一郎 2722	中山 正昭 2739
西村 伸也 2664	南 繁行 2760	澤井圭二郎 2694	木内 龍彦 2706	小林 治俊 2173	溝口 幸司 2174
伊奥田浩志 2963	志水 英二 2678	五百井正樹 2977	谷口 徹郎 2707	角掛 久雄 2723	金 大貴 3087
東 恒雄 2666	高橋 秀也 2679	小澤 文幸 2884	坂 壽二 2708	北田 俊行 2734	中山 弘 3088
加藤 健司 2665	重田 和夫 2761	南 達哉 2980	谷口与史也 2709	山口 隆司 2765	北田 忠義 3089
脇本 辰郎 2965	青笹 正夫 2680	片山 博之 2885	那谷晴一郎 3076	松村 政秀 2735	細田 誠 2742
南齋 征夫 2667	草開 稔 2681	三浦 洋三 2798	西岡 利晃 2992	高田 直俊 2724	曾我部 伸 2740
吉岡 真弥 2967	田中 健司 2681	圓藤紀代司 2697	新居 洋子 2710	東田 淳 2725	藤井 康夫 2738
川上 洋司 2668	松下 賢二 2792	米澤 義朗 2770	大倉 良司 2711	大島 昭彦 2996	増岡 俊夫 2879
上神謙次郎 2662	中川 吉郎 2878	朝見 賢二 3080	藤本 益美 2989	西村 昂 2730	三村三木夫 2880
佐藤 嘉洋 2670	宮崎 大介 2877	米谷 紀嗣 2984	徳尾野 徹 2713	日野 泰雄 2731	小林 中 3095
瀧山 武 2672	建部 渉 2687	山田文一郎 2797	杉山 茂一 2176	吉田 長裕 2731	中村 勝弘 2768
高田 洋吾 2970	辻本 浩章 2685	松本 章一 2981	中谷 礼仁 2714	角野 昇八 3078	寺井 章 2748
	村治 雅文 2976	セタルンドバル 2189		鬼頭 宏明 2723	
情報工学科	生物応用化学科	知的材料工学科	環境都市工学科	共 通	事務室等
濱 裕光 2772	井上 英夫 2782	福田 武人 2660	土井 幸平 2715	(応用数学)	教務係 2653
柳原 圭雄 2773	笠井 佐夫 2783	逢坂 勝彦 2962	赤崎 弘平 2717	多羅間茂雄 2669	庶務係 2651
前川 義治 2763	北村 昌也 3091	高坂 達郎 2182	中村 仁 2716	鈴木 広隆 2712	学情サブセン 2657
岡本 次郎 2684	大嶋 寛 2700	元木 信弥 2661	三木 信博 2993	麓 隆行 2780	ター 2096
平井 誠 2683	東 雅之 3092	山崎 友裕 2181	西岡 真稔 2718	(機械工作室)	守衛室
中島 重義 3096	五十嵐幸一 2699	大島 信生 2961	鍋島美奈子 2719	若林三記夫 2969	
辰巳 昭治 2688	玉垣 誠三 2695	橋本 敏 2673	小田 一紀 2732		
北村 泰彦 3081	長崎 健 2696	A・ビノグラフ 2179	矢持 進 2175		
藤原値賀人 2689	東 秀紀 2168	兼子 佳久 2179	重松 孝昌 2733		
岡 育生 2779	山内 清 2703	森 雄造 2743	山田 優 2727		
阿多 信吾 2191	田辺 利住 3094	金崎 順一 2741	貫上 佳則 2728		
村田 正 2795	立花 亮 2702		西 元央 2780		
杉山 久佳 2796	荻野 健治 2799				
辻岡 哲夫 2192	申部 宏之 2747				

新卒評議員

新評議員(1999年・2000年卒)は以下のとおりです。
クラスメート各位はよろしくご協力下さい。

学 科	1999年卒	2000年卒
機 械 工 学 科	竹中 健 神田 尚武	綾 亨 井上 忠之
電 気 工 学 科	竹住 龍司 北条真一郎	小川 洋記 谷本 憲保
応 用 化 学 科	中村 典弘 牧村 嘉也	佐藤絵里子 谷口 功
建 築 学 科	嵐 謙次郎 吉川真希子	吉田 武司 北浦 千尋
土 木 工 学 科	川副 孝行 篠原 晴美	妹脊 吉彦 脇坂 和征
応 用 物 理 学 科	田中 淳 中本 竹織	上柿 眞也 岡本 諭士
情 報 工 学 科	城戸 清規 奥田 悟崇	東 一代 前田 康孝
生物応用化学科	榊原 修平 有本 武司	渡辺 浩史 竹島 秀幸

編集後記

今年は、北海道の有珠山や三宅島の雄山が噴火し、その周辺地域では震度5や6の地震が頻発しましたが、被害を被られた会員のいらっしゃることを祈ります。

さて、本号では母校の近況、新入生や卒業・修了生の名簿、新卒評議員名、および事務局年報等は1999年と2000年の2年分を掲載しました。また、この2年間には、9名の恩師がご定年をお迎えになりましたが、中井博(土木)先生と西村仁(応物)先生にしかご寄稿頂けませんでした。

本号から、24頁に増やしました。次号以降では、より多くの会員の方にご寄稿頂けるようになり、クラス会やR.P同好会等の記事もご寄稿願う予定ですので、宜しくご協力下さい。

本号は、20世紀最後の工学部同窓会報です。21世紀には、会員各位のご支援・ご鞭撻により、一層充実した同窓会報に育てたいと考えております。

(M. H. 生)

編集委員

南齋 征夫(機械・昭39年卒) 建部 渉(電気・昭35年卒)
大嶋 寛(応化・昭49年卒) 赤崎 弘平(建築・昭45年卒)
小林 治俊(土木・昭45年卒) 美馬 宏司(応物・昭34年卒)
○人見 宗男(機械・昭31年卒) (但し、○印:委員長)